

2015年度日本数学会賞建部賢弘賞受賞者の横顔

2015年度の日本数学会賞建部賢弘賞の授賞式は、2015年度秋季総合分科会の際の9月14日（月）14時50分より、京都産業大学にて行われました。

受賞者については、「数学通信」第20巻3号の会報159でお知らせいたしました。建部賢弘賞は1999年度より特別賞、奨励賞の2部門となりました。受賞者の方々の紹介として、ご本人からプロフィールを数行書いて頂き、写真と共に掲載しています。

（五十音順、敬称略、所属は受賞時点のものです。）

特別賞

小野寺有紹（九大マス・フォア・インダストリ研究所助教）

業績の題目：発展方程式的アプローチによる楕円型方程式の解の形状の研究

楕円型偏微分方程式を中心に研究を行っています。

最近、過剰決定問題や形状最適化問題などの領域の形状を問う問題に対して、領域変化を記述する発展方程式の導出・解析を通じて解の構造を理解しようと努力しています。この場をお借りし、常日頃よりお世話になっている方々へ厚く御礼申し上げます。

本多正平（東北大理准教授）

業績の題目：リーマン多様体の極限空間上の幾何解析

私が数学をやっていて嬉しいことの一つは、多くの人と数学でつながること、そしてそこから広がる更に多くの人に支えられて今の自分があるのだと心の底から実感できることです。今回の受賞ももちろんそうです。そのような方々全てに感謝し、これからはどなたかの、そのような人に自分になれるようもっと頑張ります。

山名俊介（京大白眉センター助教）

業績の題目：保型L関数とテータ対応

保型形式やL関数といった数の不思議を閉じ込めたような関数たちを研究しています。これらの関数は数の神秘を知っているはずですが、その秘密を教えるにはまだまだ付き合いが足りないようです。これまで研究を支えて下さった沢山の方々への感謝を、そして研究を始めたときの初心を忘れず、もっと斬新にさらに大胆に数の研究に挑んでいきたいと思いません。

奨励賞

池田正弘（京大理学振 PD）

業績の題目：非線形分散型波動方程式に対する解の漸近挙動に関する研究

私は、非線形シュレディンガー方程式等の波動現象を記述する偏微分方程式の解の性質を解析学を用いて研究しています。今回は身に余る賞を頂き大変光栄です。お世話になっている先生方、共同研究者の方々、同僚の皆様、日頃からサポートして頂いている皆様のおかげです。この場を借りてお礼を申し上げたいと思います。

牛越恵理佳（玉川大工助教）

業績の題目：ストークス方程式のアダマール変分公式

流体力学の基礎方程式として知られているストークス方程式に対するアダマール変分公式について研究を行っています。アダマール変分公式とは、Green 関数などに代表される領域に依存して決まる関数が、その領域の摂動に伴いどのような変化をするかを表現する公式です。同変分公式を流体力学における領域摂動問題に応用することが今後の目標です。この場をお借りして、日頃お世話になっている方々に御礼申し上げます。

側島基宏（東京理大理ポスドクトラル研究員）

業績の題目：非有界な係数をもつ 2 階楕円型作用素の研究

非有界な係数をもつ楕円型作用素がもつ多様な性質に興味をもって研究しています。最近では偏微分方程式への応用を視野に入れて研究に励んでいます。この場をお借りして、日頃からお世話になっている先生方に深くお礼申し上げます。

森本和輝（京大理学振 PD）

業績の題目：保型形式の周期と L 関数の特殊値

保型 L 関数と保型形式の周期との間の算術的・解析的關係について研究しています。最近では Whittaker 周期や Bessel 周期などの保型形式の周期と L 関数の特殊値とを結ぶ明示的な公式に興味があります。この場をお借りして、日頃お世話になっている皆様にお礼申し上げます。